

老福連第 17 回職員研究交流集会

参加報告書

日時：2017 年 12 月 9 日（土）～11 日（月）

場所：神戸市勤労会館

テーマ：めっちゃええやん 福祉の仕事

報告者：運営委員 山野英治

◆ 1 日目

老福連からの基調報告

21 老福連事務局長 正森克也氏

介護保険制度が始まり 17 年が経過、来年は改定が予定されている。

特養の食費や家賃の減額要求や、利用者の 3 割負担が見込まれる。

現状は、介護保険制度が開始された当初目的から大分かけ離れてきている現状や利用抑制が国の目的である・・・等の報告がなされた。

記念講演 I

講師 愛知県立大学 教育福祉学部 准教授 久保田 貢 氏

日本国憲法の輝く社会に～福祉現場で働く職員と憲法～

現行憲法施行から 70 年、今、その憲法を変えようとする動きが起こっている。

基本的人権、福祉という点から現行憲法がいかに良いかの解説がなされ、「憲法」という未完のプロジェクトを福祉・介護の点から憲法をしっかりと身に着け、完成に向かって進める。現行憲法がよいかの講演内容であった。

記念講演 II

～めっちゃ A-studio～

関西の人気 TV 番組を模したスタイルで 20 代～40 代の

介護現場で働いている男女 3 名が、それぞれの悩みや、

問題点などを語り合う内容であった。

20 代女性が自分の生き立ちから、介護の仕事に就くまでの話が、しっかりされ、目的をもってこの仕事に励んでいるのが印象的であった。

◆2日目

F分科会～家族や地域との関わり 分科会参加者 13名

F分科会は“家族や地域との関わり”をテーマに、2名の参加者から発表があった。

- ① 白十字ホーム家族会 40年の歩み 報告者：白十字ホーム
家族会のあゆみと、組織、予算、看取りの勉強会について報告した。
- ② 外出支援～家族の要望からのスタート 報告者：なんぶやすらぎホーム
外出希望の方に対し、どのようなきっかけから、始まり、実施しているか
家族、職員との連携や合意形成が必要かの報告があった。

◆3日目

記念講演でフリージャーナリスト西谷文和

～戦争のリアルと安倍政権のウソ～今こそ平和憲法の輸出を～！

のテーマでご自身が経験された中東、アフリカ、南スーダンの戦争の現状と、現行憲の重要性、大手マスコミニュースの懐疑点などの話があった。

まとめ

メインは二日目の分科会発表であった。発表者が私を含め2名のみで、発表は午前中で終了する。このためか、午後は、分科会参加者13名にアンケートを実施、その発表に基づき、質疑応答がなされた。(別紙)参加者は現場の介護職や事務の方など、の立場からの質疑であり、こちらの内容が充実し、意義深いものであった。

どのようにすれば、家族会の活動がより活発にすることができるかなどの質問が寄せられ、意見を述べる。あらためて白十字ホーム家族会の充実した活動や、運営が、非常にまれな成功例であることが実感した。

また、障害と介護を一緒の制度にする議論が巷ではあるようだが、もともと、ニーズも異なるので、一緒に議論することが間違っているなどの意見や、「措置」と介護保険にもとづくサービスを全く行政側で理解していない人がいるなどの経験談は参考になった。